

真理の市場戦略

—ニーチェがキリスト教に見たプロパガンダー—

松波烈(京都大学)

コッリとモンティナーリの編纂によるグロイター社の批判校訂版ニーチェ全集の第3部第3巻から第8部第3巻までに収録されている遺稿断片群は、バーゼル大学に就職した1869年の秋から、正気を失う1889年1月初頭までをカバーしており、特に1878年以降の独自の思想を理解する上では有益な資料となっている。出版書籍の草稿も含んでいる遺稿断片群は、高名な作品の概念の注釈となりうる文章もあれば、公刊した著述には現れることのない顔も見せる。中には、しばしば過剰に精神的な意味に解される例えば「超人」のような概念を釈義し、これは既存の現生人類の亜種のようなもののもつりて言っただけのものだと述懐する文章(W II 2. Herbst 1887, 10[17])があれば、人間を極めて即物的・生態学的にとらえてその行動特性を有史以前の環境淘汰圧下に生じたものと考察する進化心理学的な考察を示す文章(M III 1. Frühjahr-Herbst 1881, 11[130])も残していれば、他に、交霊術といった大流行のオカルトを科学的に意味解体しようとする文章(N V 9a, N VI 1a. Tautenburger Aufzeichnungen für Lou von Salomé. Juli-August 1882, 1[31])において、霊媒に働く思考電流を神経上の電流とパラレルに論じながら、幻肢(phantom limb)もしくはゴムの手の錯覚(rubber hand illusion)という現代の実験科学に通じる内容を示す箇所があり、随所で、人間を非常に即物的に捉える姿勢を示し、現代の科学研究に通じる部分を残している。

2002年にノーベル経済学賞を受賞したD・カーネマンが心理学者であったことは象徴的なことであり、売買や消費活動という、自由市場経済下の現代では人間の命運を左右するものと言える行動が、心理学の対象となった。テクノロジーが切りひらく現代の市場に、現代テクノロジーに適合するのが困難な進化上の位置にいる人類の認知がどのように対応するのかという議論が今日たけなわである。その意味で、ヒト認知の解明は現代の社会において決定的に重要である。

ニーチェと認知科学をタイトルにした2008年の研究(Angèle Kremer Marietti, Nietzsche, Metaphor and Cognitive Science)が、「ニーチェが認知科学の先駆者だと確言するつもりは決していないのだが」とためらいつつも、認知科学がメタファーの役割を重視している方向性にのっとりた上でニーチェ思想におけるメタファーの役割を研究しており、記号が組織化されてゆく思考のプロセスをただ一人考えぬいていた人物であるというニーチェに現代性を見ているが、本研究発表では、こういったためらいを残すよりは、現代の研究の枠内に置くことで真価を示す部分が明らかになると認めてしまう方向性を模索する。

まずはじめに遺稿断片 Mp XVII 1b. Winter 1883-1884, 24[34]取り上げ、そこで、随意運動に際して運動に必要な脳内のプロセスは運動の意図に先んじて生じるのであるという非常に奇怪で理解困難な主張がなされていることを見、ニーチェの自由意志否定論においては自由意志の「随伴」説といった哲学的な主張がなされているというよりも、意志と運動に関する科学的な解剖のメスが入れられていると見るべきではないだろうかと考察する。実際に、Mp XVII 1b. Winter 1883-1884, 24[34]の描く理解困難なプロセスが実は真であることが、1960年代以降に提唱される「準備電位」の知見を自由意志の問題と絡めて研究した

B・リベットらの1980年代の実験において立証される。こういった事柄を確認することによって、ニーチェ思想に現代科学に通じる内容を見ることの支持の1つを得た上で、本論では、ニーチェとキリスト教との関係を論じる研究においてほとんどかえりみられることのなかったアспект、ニーチェがキリスト教の宣伝活動や布教戦略について考察していたという点を取り上げる。その際に参照とするN II 4. Sommer 1878, 29[22]においては、同時代のフェヒナーが漠然とした形で示しながら、1960年代にR・B・ザインスの実証研究が明確に提示する単純接触効果(mere-exposure effect)がキリスト教の布教活動において認識され利用されていたということが述べられており、ヒト個体やその集団における知覚プロセスや行動特性に関して20世紀後半の知見に達する水準を示していることが明らかになる。単純接触効果とは広告産業の文脈において知られる概念である。ニーチェのキリスト教考察は精神的なものであるに限られてはおらず、極めて具体的な市場戦略的な行動パターンを洞察するというものでもあった。